



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月8日

上場会社名 新潟交通株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9017 URL <http://www.niigata-kotsu.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 佐藤 丈二
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員総務部長（氏名） 今城 哲 TEL (025)246-6335
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績〔累計〕

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期 第2四半期	10,287	0.3	697	17.3	251	113.5	99	—
25年3月期 第2四半期	10,255	△0.0	594	8.4	117	66.1	△466	—

（注）包括利益 26年3月期第2四半期 105百万円（－％） 25年3月期第2四半期 △476百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期 第2四半期	2.60	—
25年3月期 第2四半期	△12.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期 第2四半期	58,190	10,842	18.6	282.03
25年3月期	59,136	10,736	18.2	279.26

（参考）自己資本 26年3月期 第2四半期 10,842百万円 25年3月期 10,736百万円

2. 配当の状況

(基準日)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年 3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年 3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年 3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,800	0.9	1,650	△1.6	750	3.4	500	280.5	13.01

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

② 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	38,640,000株	25年3月期	38,640,000株
26年3月期2Q	196,629株	25年3月期	194,373株
26年3月期2Q	38,444,272株	25年3月期2Q	38,447,117株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外です。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による積極的な経済対策や金融緩和等を背景として、景気は緩やかに回復しつつある状況となっております。景気の先行きについても、輸出の持ち直しや各種政策の効果が発現するなかで、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される一方で、依然として海外景気の下振れが、我が国の景気を下押しするリスクとして存在する状況となっております。

こうした事業環境の中、当社グループでは昨年度より“成長企業への転換”を経営方針とする「第4次中期経営計画」をスタート致しました。当年度は同中期経営計画の最終年度への橋渡しの年として、前年度を上回る成果をグループ全体で残すべく積極的に事業を展開致しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の総売上高は10,287百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は697百万円（同17.3%増）、経常利益は251百万円（同113.5%増）、四半期純利益は99百万円（前年は四半期純損失466百万円）となりました。

セグメントの業績の概況は、次の通りであります。

○運輸事業

乗合バス部門では、お客さまに信頼されるバスを目指し、定時性の向上に努めました。定時性の向上に向けては、現金やバスカードに比べてスムーズな乗降が可能となるICカード「りゅーと」の普及を促進する中で、ご利用履歴確認ソフトを開発する等、「りゅーと」保有者へのサービス環境の整備により利便性の向上に努めました。しかしながら、バスカード及び回数券の販売終了に伴い、運賃収入は前年同期比減収となりました。

高速バス部門では、京都大阪線にて往復乗車券と大阪市交通局の1日乗車券がセットになった「大阪いっ得きっぷ」（平成25年4月1日～平成26年3月31日）を販売開始したほか、大宮・新宿線の新設（平成25年8月1日～）やルート・運賃設定方法の変更等による顧客満足度の向上と運賃収入の増加に努めた結果、県外線においては前年同期を上回る運賃収入を得ることができました。一方、県内線においては、一部路線（三条・燕、巻、五泉・村松線）にて実施した減便の影響等により、前年同期比減収となりました。

貸切バス部門では、お客さまの「安心・安全」に対するニーズの高まりに伴い旅行代理店からの受注件数が増加基調にあったことから、平成25年4月に観光バスを7台新車投入し、収入の増加に努めました。こうした施策と観光バス受注センターへの情報一元化による効率的なバスの運用により、貸切バス収入は前年同期比増収となりました。

この結果、運輸事業の売上高は4,830百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

○不動産事業

不動産事業では、「万代シテイ」が平成25年11月に40周年を迎えることから、平成25年7月に「万代ファミリーフェスタ」、「火祭りプロレス2013新潟大会」、平成25年8月に「万代JAZZフェスティバル」、「24時間テレビチャリティイベント」、平成25年9月に「芸王ダンスコンテスト」、「NSTまつり2013」等、万代シテイ商工連合会商店街振興組合と連携して、ほぼ毎週末40周年記念イベントを実施し、万代シテイへの来街客増加に努めました。こうした活動の成果により、賃貸収入と駐車場収入が前年同期比増収となりました。

この結果、不動産事業の売上高は1,507百万円（同2.8%増）となりました。

○商品販売事業

商品販売事業では、基幹の観光土産品卸売部門が概ね順調に推移し、平成25年7月にはリニューアルした「新潟市水族館マリニピア日本海」の館内ショップをオープン、平成25年9月にはバスセンターにキャラクター商品を販売する「きゃらプレイス」をオープンし増収に努めましたが、昨年の北信越インターハイ開催を背景とした増収要因が剥落したことに加え、佐渡島内における直営販売店（リカーショップくれよん）を平成25年4月に閉鎖したことが影響し、売上高は前年同期比微減となりました。

コンビニエンス部門においては、積極的な商品展開と種々のキャンペーン効果により、来店客数及び購入単価が増加し、前年同期比増収となりました。

この結果、商品販売事業の売上高は1,346百万円（同0.3%増）となりました。

○旅館事業

佐渡市内の「国際佐渡観光ホテル八幡館」では、宿泊客層の改善に取り組み、「低価格の団体・ツアー」から「高価格の個人」へのウェイトシフトを行った結果、宿泊客数では前年を下回ったものの、宿泊収入は前年を上回り、前年同期比増収となりました。

新潟市内の「万代シルバーホテル」では、館内レストランにおける「初夏プラン」等の企画により集客強化を図りました。また、フリーアナウンサー福澤朗氏等を囲んだ「新潟の地酒、食、文化堪能会」(平成25年9月13日)、「WBC (WORLD BEER CLASSIC)」(同9月26・27日)等のイベントを実施することにより宴会収入は前年を上回り、前年同期比増収となりました。

この結果、旅館事業の売上高は1,114百万円(同4.8%増)となりました。

○その他事業

旅行業では、「大学オープンキャンパスへの見学ツアー」や「勉強合宿」等の企画を含めた教育旅行が計画以上に推移した他、25周年を迎えた「くれよん」では、新潟日報旅行センターとの共同企画や「夏のおでかけバック」等、魅力ある旅行商品を企画し販売強化に努めた結果、国内旅行では前年を上回る収入を得ることができました。しかしながら、海外旅行での中国・韓国への旅行需要の減少も影響し、旅行業全体では前年同期比減収となりました。

広告代理業では、行政、観光協会及び県内外の交通広告代理店への積極的な営業活動の結果、前年同期比増収となりました。

航空代理業では一部国内線における大型機材の運航やチャーター便運航に伴う空港受託業務手数料増により、前年同期比増収となりました。

清掃・設備・環境業では、厳しい事業環境の下、前年同期比減収となりました。

この結果、その他事業全体の売上高は1,487百万円(同0.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、売掛金の増加や現金及び預金の減少などにより、前期末に比べ945百万円減少し、58,190百万円となりました。

負債は、借入金の返済による減少などにより、前期末に比べ1,051百万円減少し、47,348百万円となりました。

また、純資産は、四半期純利益99百万円計上による利益剰余金の増加などにより、前期末に比べ105百万円増加し、10,842百万円となり、自己資本比率は18.6%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第2四半期期連結累計期間の業績が想定した範囲内で推移しております。従って、本年5月15日に公表いたしました見直しを変更していません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前年度の検討において使用した将来の業績予想や、タックスプランニングを使用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,571,279	1,805,972
受取手形及び売掛金	1,030,366	1,248,846
商品及び製品	160,910	213,964
原材料及び貯蔵品	121,900	117,236
その他	846,711	542,848
貸倒引当金	△12,343	△9,661
流動資産合計	4,718,825	3,919,207
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,762,403	12,437,042
土地	37,911,657	37,912,053
その他(純額)	2,352,930	2,516,365
有形固定資産合計	53,026,990	52,865,460
無形固定資産	289,628	287,223
投資その他の資産	1,100,784	1,118,488
固定資産合計	54,417,404	54,271,173
資産合計	59,136,229	58,190,380
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	851,900	958,887
短期借入金	19,220,706	18,617,737
未払法人税等	61,034	72,456
賞与引当金	130,506	241,782
その他	2,857,510	2,598,653
流動負債合計	23,121,657	22,489,516
固定負債		
社債	260,000	160,000
長期借入金	16,598,882	16,079,773
再評価に係る繰延税金負債	4,964,499	4,964,499
退職給付引当金	334,283	317,760
役員退職慰労引当金	235,374	205,974
その他	2,885,044	3,130,801
固定負債合計	25,278,083	24,858,808
負債合計	48,399,740	47,348,325

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,220,800	4,220,800
資本剰余金	2,946,550	2,946,550
利益剰余金	△4,290,963	△4,191,085
自己株式	△32,957	△33,385
株主資本合計	2,843,429	2,942,879
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14,617	△10,419
繰延ヘッジ損益	—	1,919
土地再評価差額金	7,907,676	7,907,676
その他の包括利益累計額合計	7,893,058	7,899,175
純資産合計	10,736,488	10,842,055
負債純資産合計	59,136,229	58,190,380

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	10,255,558	10,287,409
売上原価	7,432,381	7,344,346
売上総利益	2,823,176	2,943,062
販売費及び一般管理費	2,229,070	2,245,966
営業利益	594,106	697,096
営業外収益		
受取利息	1,016	860
受取配当金	5,271	5,214
持分法による投資利益	8,025	9,981
雇用調整助成金	8,239	—
その他	14,552	16,495
営業外収益合計	37,105	32,551
営業外費用		
支払利息	507,668	469,424
その他	5,971	9,204
営業外費用合計	513,639	478,628
経常利益	117,572	251,018
特別利益		
固定資産売却益	974	637
投資有価証券売却益	—	2,739
補助金収入	20,149	20,490
株式割当益	2,579	—
その他	82	2,160
特別利益合計	23,785	26,027
特別損失		
固定資産売却損	514,395	470
固定資産除却損	23,275	18,024
バスカード払戻金	—	71,486
テナント退去補償金	—	22,847
その他	—	207
特別損失合計	537,671	113,037
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△396,313	164,008
法人税、住民税及び事業税	38,300	56,689
法人税等調整額	31,623	7,441
法人税等合計	69,924	64,130
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△466,238	99,877
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△466,238	99,877

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△466,238	99,877
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10,385	4,197
繰延ヘッジ損益	—	1,919
その他の包括利益合計	△10,385	6,117
四半期包括利益	△476,623	105,994
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△476,623	105,994
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸事業	不動産事業	商品 販売事業	旅館事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	4,885	1,466	1,342	1,063	8,757	1,498	10,255	—	10,255
セグメント間の内部 売上高又は振替高	77	248	34	19	380	328	709	△709	—
計	4,962	1,714	1,376	1,083	9,137	1,827	10,964	△709	10,255
セグメント利益又は 損失(△)	△344	670	99	42	469	124	594	0	594

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅行業、航空代理業、清掃・設備・環境業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸事業	不動産事業	商品 販売事業	旅館事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	4,830	1,507	1,346	1,114	8,799	1,487	10,287	—	10,287
セグメント間の内部 売上高又は振替高	84	247	31	11	374	336	711	△711	—
計	4,914	1,754	1,377	1,126	9,174	1,824	10,998	△711	10,287
セグメント利益又は 損失(△)	△325	763	87	57	582	113	696	0	697

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅行業、航空代理業、清掃・設備・環境業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。